

イナゴ 会話型応答システム

アンドロイド全機種対応に

キラリ!
わが社の商品・サービス

スマートフォン（高機能携帯電話）に、「麻布十番でイタリア料理を探して」と語りかけると女性の声で「イタリア料理ですね。探してみます」と答える。こんな自然な会話で、コンシェルジュ（案内係）のようにグルメやイベントの情報、天気予報などを教えてくれるサービスが、来年1月から、全てのアンドロイドOS（基本ソフト）を搭載したスマホで使えるようになる。

この会話型応答システム「NetPeople（ネットピープル）：a」を開発したのがITベンチャーのイナゴ（iNAGO、東京都港区）だ。

ネットピープル：aは今年6月、NTTドコモのスマホ「GALAXY（ギャラクシー）S II」向けに登場した。イナゴのロン・ディカールアントニオ最高経営責任者（CEO）は1月から、全てのアンドロイド携帯で使えるようになることから、ユーザーが急拡大することに強い期待をかけている。

会話型のソフト開発は競争が激しく、まさしく「秒進分歩」のめまぐるしさ。昨年4月、米

国で会話型の秘書機能「Siri（シリ）」を開発してきベンチャー企業、「シリ」が米アップルに買収された。シリは他を捨て、アップル向けだけに開発を集中した。ディカールアントニオCEOは、ライバル企業と目していただけに、その動きに驚かされた。今年10月、アップルの「iPhone（アイフォーン）4S」に搭載され、シリは日の目を見た。

ただ、「満足できるレベルではない」（ディカールアントニオCEO）とみている。シリは英語、ドイツ語、フランス語に対応しているだけで、日本語版は来年からとされている。ネッ



携帯端末を手に「ネットピープル：a」について説明する、イナゴのディカールアントニオCEO
―東京・麻布十番の本社で

トピープル：aは当初から英語、日本語に対応してきた。

スマホも単語レベルの音声認識して、飲食店を探したり、目的の場所へナビゲーションしてくれるサービスなどを搭載できるようになった。この数年イナゴやシリのように、会話型システムを開発したという企業は次々登場している。

「こうしたシステムは検索の延長で、対話というより情報を

並べて選ばせるだけ。ネットピープルのように条件を絞り込む機能はない」（同）と分析し、シリに対しても「機能は上」と自信を見せる。

ダウンロードは無料だが、全アンドロイド携帯にユーザーが拡大することによって、来年度からは広告やアフィリエイト（成果報酬型）広告の収入が拡大すると期待している。

（広瀬洋治）